

2020年「ウクライナ特集」発刊にあたって

2号にわたって掲載される本特集は、2019年度神戸学院大学経済学会研究助成「ウクライナの政治・経済・文化・環境の現状分析」の成果である。本学経済学会からは2014年度、2016年度、2017年度も援助を受けた。ウクライナ研究への継続的な援助に対して関係各位に心より感謝申し上げたい。

2020年初春より日本を襲ったコロナ禍は、本学とウクライナとの交流にも大きな影響を与えた。3月には、筆者にくわえ、中村亨教授、三宅敦史准教授を講師として、協定校のウクライナ大統領府属国家行政アカデミーと共同で実施される予定であった集中講義「経済政策の形成と実施：ウクライナに対する日本の経験」が、渡航前日に中止となった。同プログラム修了者には共同サーティフィケートが授与される画期的プログラムであったため、斬鬼の念に堪えない。

本号では、2名の大使からの寄稿をいただいた。まず角茂樹前駐ウクライナ日本国大使（2014-18年）である。角大使は現在、玉川大学ならびに岩手大学客員教授として教壇に立たれ、研究を行われている。次に、10月に着任されたばかりのセルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使の論考も収録されている。コルスンスキー大使の前任は、ヘンナジー・ウドベンコ記念ウクライナ外務省付属外交アカデミー学長であり、多くの著作で知られている。

このような状況下でも、日宇関係がますます深化することを期待している。今後も変わらず、日本におけるさらなるウクライナ研究の進展に微力ながら尽力する所存である。神戸学院大学経済学部には、今後も変わらぬ支援をお願いしたい。

研究助成代表者

神戸学院大学経済学部教授、ウクライナ研究会会長

岡 部 芳 彦